

令和6年11月25日  
農 林 水 産 部

報道機関各位

令和6年度山形県ベストアグリ賞授与式の開催について

このことについて、下記のとおり開催しますので取材くださるようお願いいたします。

記

1 日 時 令和6年12月4日（水）午前11時30分～正午

2 場 所 山形県庁5階 502会議室

3 受賞者（8者）

（1）農林水産大臣賞・山形県ベストアグリ賞（法人1者）

（2）東北農政局長賞・山形県ベストアグリ賞（法人1者）

（3）山形県ベストアグリ賞（法人5者、団体1者）

※各受賞者の概要は、別紙のとおり

4 山形県ベストアグリ賞について

山形県優秀農家発表会（昭和47年～昭和56年）、山形県農業者実践成果発表会（昭和57年～平成3年）を拡大継承して、平成4年度に創設された。

地域の環境を活かし優れた経営等を実践している先駆的な農業者等を表彰し、その取組みを県内に広く紹介し普及することで、本県農業の振興・発展を図ることを目的とする。

特に優秀と認められた受賞者のうち、第1位には「農林水産大臣賞」、第2位には「東北農政局長賞」が授与される。

（昭和47年以来、令和5年度までの受賞者数は475者）

【問い合わせ先】

農林水産部農業技術環境課

副主幹（兼）課長補佐 浅野目 TEL 023-630-2446

[報道監] 農林水産部次長 高橋

(別紙)

## 令和6年度 山形県ベストアグリ賞受賞者の概要

(敬称略)

### 農林水産大臣賞・山形県ベストアグリ賞

#### 株式会社<sup>じござえもん</sup>治五左衛門 鶴岡市

- ・「だだちゃ豆」の良食味と高収量を両立するため、きめ細やかな栽培管理に取り組み、地域の平均を上回る高単収を確保している。
- ・外資系企業で営業担当として培ったスキルを活かし、取引先から信頼を得ることで高い直接販売率と高単価を実現し、安定した利益を確保している。
- ・研修生を受け入れ、地域の担い手育成に取り組んでいる。将来的な規模拡大に対応するため、令和6年度から県の外国人材活用トライアル事業を活用し、多様な担い手の導入に取り組んでいる。

### 東北農政局長賞・山形県ベストアグリ賞

#### 株式会社うばふところ 上山市

- ・観光果樹園やカフェを取り入れた果樹経営から、市場ニーズに応じた栽培品目を導入し、生産部門に集中できる複合経営への転換を進めた。
- ・春季～秋季の果樹に、夏季の小玉すいか、冬季のせり等の露地野菜栽培を組み合わせることで周年農業が可能となり、売上が拡大している。
- ・通年雇用で正社員やパート従業員を安定的に雇用でき、繁忙期の働き手確保問題が解消された。平成31年に法人化し、社会保険加入等福利厚生の実現が図られた。

## (1) さがえ西村山りんご部会 西村山地域

- ・西村山地域は、数量・品質ともに県内のりんご産地を牽引してきた産地であり、令和4年に広域多目的選果施設の整備で県内最大の統一共選が誕生した。
- ・鮮度保持が可能となったことで、令和5年は整備前の令和3年に比べ、輸出量が約4倍の179t、輸出販売金額が約6倍の8,700万円となった。
- ・最新の選果施設を整備したことで6等級選果が可能となり、選果場持ち込み前の粗選別が不要になったため、収穫期の労力が軽減した。

## (2) 農事組合法人<sup>わくら</sup>和久楽 村山市

- ・村山市戸沢地区の担い手農業者5戸で令和元年度に法人化した。構成員の農地に加え、高齢化等で耕作できなくなった農地を集約することで、水稻及びそばで100ha超の経営を実践し、年々作付面積を拡大している。
- ・営農支援アプリや高性能農業機械を導入し、スマート農業技術を実践している。また、品種毎に団地化し、高品質、良食味な米を生産している。
- ・田植え後の水管理を外部委託し、個人経営の園芸品目の管理と両立している。

## (3) 農業生産法人もがみグリーンファーム株式会社 最上町

- ・建設業から農業に参入し、企業グループの他事業分野と連携を図ることで、繁忙期の人手確保と冬期の安定雇用を実現している。
- ・生産された農作物は、県内外の商社、実需者等に販売しているほか、グループの観光・福祉事業で利用されている。
- ・条件不利地が多い地域で延べ351haの作業受託を引き受け、耕作放棄地の解消に努め、最上地域の農業振興に貢献している。

## (4) 農事組合法人上和田有機米生産組合 高畠町

- ・「持続可能な農業・環境への負荷が少ない農業」を基本理念にかかげて、環境にやさしい農業を実践し、組合員が生産した有機米を上和田米として販売している。
- ・平成12年に生産組合が有機JAS認証を取得し、安全性と食味の両立を実現している。
- ・20～40代の青年部が積極的に消費者との交流や、販売促進活動を行い、活気ある後継者が育成されている。
- ・大学のゼミ受け入れや、地元小学生への食農教育を通じて、地域の活性化と地域社会発展へ貢献している。

**(5) 農事組合法人<sup>はくすい</sup>白水 長井市**

- ・地区の農地面積約71haの5割を超える約40haを集積し、その過半を団地化することで効率的な営農を実現し、地域農業の維持・発展に貢献している。
- ・水稻部門ではスマート農業技術を取り入れて作業の効率化を進めるとともに、周年雇用した労力を活用してえだまめや「啓翁桜」等の園芸品目を導入し、収益の向上を図っている。
- ・小学校の稲作実習田における農業体験や、農業高校の交流会参加を通して、食育や農業への理解増進の取組みを行っている。

**(6) 農事組合法人ビーンズ本楯 酒田市**

- ・本楯地区において、水田フル活用の中で大豆生産に取り組み、収穫作業を請け負う唯一の組織である。
- ・大豆と飼料用米の輪作体系を確立し、肥料費の節減を図りながら多収を実現している。また、高収量圃場の地権者には、加算精算する法人独自の制度を設けている。
- ・「啓翁桜」やシャインマスカット栽培の周年農業で、収益性向上を図っている。